

平成24年度卒業論文

人の生活水準と宗教の必要性

所属ゼミ	村澤ゼミ
学籍番号	1090401093
氏名	中喜重

大阪府立大学経済学部

要約

人間の歴史の中には必ず宗教が存在する。人は昔から救いを求めて宗教を信仰してきた。では、生活が豊かになり、世俗化された現代では宗教は不必要になってしまったのであろうか。

本稿では次の2つの仮説を立て、現代にも信仰心を持っている人は存在し、その人たちのためにも宗教は存在するということを検証する。

1. 確かに生活が豊かになると宗教を信仰する人は減少する。
2. しかし神やあの世の存在を信じる（以後信仰心と呼ぶ）人やそのような心が大切だと思う人は減少しない

この2つの仮説の分析には JGSS-2008 のデータを用いた。信仰心を死後の世界を信じるかどうか、生活の豊かさを世帯年収に置き換え、gretl という統計ソフトを利用した。

仮説1は分析の結果、正しいことが証明された。世帯年収が高い人ほど宗教は信仰していない。仮説2は分析の結果、逆であることが証明された。世帯年収が高くなるほど信仰心も高くなる。これらの結果は生活が豊かな人の信仰心とは特定の宗教の信仰には結びつかず、宗教が現代に必要な根拠にはなりえないことを示している。

目次

第 1 章	はじめに	4
第 2 章	先行研究	5
第 3 章	データ	6
第 1 節	JGSS	6
第 2 節	データの抽出	7

第1章 はじめに

現代の社会にはさまざまな宗教が存在するが、その宗教を信仰するする人の数は生活が豊かになるにつれて減少している、つまり世俗化が進んでいるのである。しかし、これは特定の宗教を信仰する人の数や宗教活動に時間・費用を使わなくなっているだけであって、神やあの世の存在を信じる（以後信仰心と呼ぶ）人やそのような心が大切だと思う人は減少していない。

第2章 先行研究

Rachel M. McCleary and Robert J. Barro (2006) では、宗教と経済の関係が述べられている。宗教を従属変数にとり、機会費用の原理により、生活が豊かになるほど宗教を信仰する人は減少していくことを検証している。

本稿ではこの研究をふまえて、信仰心に関する変数を従属変数にとり、回帰分析を行う。

第3章 データ

第1節 JGSS

日本版 General Social Surveys (JGSS) は、大阪商業大学 JGSS 研究センター（文部科学大臣認定日本版総合的社会調査共同研究拠点）が、東京大学社会科学研究所の協力を受けて実施している研究プロジェクトである。調査対象の母集団は、それぞれの調査年度の9月1日時点で満20～89歳の男女であり、層化2段抽出法により対象者を抽出している。層化は、全国を北海道・東北、関東、中部、近畿、中国・四国、九州の6ブロックに分け、各ブロック内で市郡規模に応じて大都市、その他の市、郡部の3つ（JGSS-2006以降は、大都市、人口20万人以上の市、人口20万人未満の市、郡部の4つ）に分ける方法をとっている。国勢調査の調査区を調査地点の抽出単位とし、各層から調査地点を抽出している。調査地点数は、ひとつの調査地点の対象者数が最大でおよそ15になるように設定している。各調査地点における対象者の抽出は、選挙人名簿（許可されない場合は住民基本台帳）からの系統抽出により行っている。

データの回収方法は、面接法と留置法を組み合わせたものである。つまり、調査項目全体を面接調査票による設問と留置調査票による設問に分割し、回答者には両方の調査票への回答を依頼している。それぞれの設問をどちらの調査票に組み込むかは、両者の特性を生かすように考慮している。面接調査票には枝分かれの多い設問など回答が複雑な設問を組み込み、留置調査票には回答が容易な設問やプライバシーへの配慮が強く求められる設問を組み込んでいる。それぞれの調査票の所要時間はおよそ20分であり、合計40分ほどで調査が終了することを目指している。どちらの調査票への回答を先に依頼するかは回答者の都合に任せることにしているが、例年、面接調査票が先に実施される場合が大半である。

JGSS は面接調査票と留置調査票をそれぞれ 1 種類用いる方式でスタートしたが、JGSS-2003 では、留置調査票を A 票と B 票の 2 種類用意し、対象者を半数ずつそれぞれの調査票に割り当てる方式をとった。この方式は、JGSS-2006 以降、標準化されている。留置調査票を 2 種類用意した場合には、それぞれの留置調査票について十分な回答数を確保するために、全体としてのサンプル数を多く設定している。

JGSS の調査項目は、原則的に毎回調査する中心的な設問と、1 回限りあるいは数回に 1 度だけ調査する時事的な設問に分けられる。中心的な設問には、回答者の職業や世帯構成などの基本属性に関する設問と、回答者の日常的な行動や基本的な生活意識、政治意識などに関する設問が含まれる。中心的な設問は、毎回同じ項目を継続して調査することが原則であるが、調査年度ごとに若干の修正を行うこともある。時事的な設問には、それぞれの調査時点で世間の注目を集めている出来事に関する設問や、集中的な分析が行いやすいように特定のテーマに焦点を絞って組み込んだ設問が含まれる。JGSS-2005 からは、一般の研究者への公募から組み込まれた設問も時事的な設問に含まれている。

第2節 データ

第1項 生活の豊かさ

生活の豊かさは世帯年収で置き換える。「昨年 1 年間のあなたの家の世帯収入は、この中のどれにあたりますか。税金を差し引く前の収入でお答えください。仕事からの収入だけでなく、株式配当、年金、不動産収入などすべての収入を合わせてください。」という質問に対し、該当する記号を 1 つ選んでもらうものである。それぞれの項目のダミー変数を取る。ダミー変数の作り方は gretl の「Dummies for selected discrete variables」で「Encode all variables」を選ぶとできる。「回答したくない」「わからない」「無回答」の選択肢は分析できないので、データから除外している。除外は gretl の「set missing value code」でその基数を打ち込むとできる。

第2項 信仰心

被説明変数の信仰心は死後の世界を信じるかどうかで置き換える。「あなたは死後の世界を信じますか。」という質問で選択肢1.はい 2.わからない 3.いいえ 9.無回答である。この変数には欠損値が存在するため、除外する必要がある。欠損値の除外も上記の除外方法でできる。この変数も「はい」、「いいえ」のダミー変数を作成し、「わからない」、「無回答」を除外する。